

【ご参考資料】

2015年1月22日

1月21日発表のブラジルの政策金利の引き上げについて

政策金利を11.75%から12.25%に引き上げ

2015年1月21日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場予想通り、政策金利を0.5%引き上げ、年率12.25%とすることを全会一致で決定しました。利上げは3会合連続で利上げ幅は計1.25%となりました。政策金利は、2011年10月後半以来の水準となっており、同中銀のインフレ抑制への強い姿勢が伺えます。

同中銀が発表した声明文では、今回の利上げはマクロ経済見通しとインフレ予測を勘案しての決定であるとしました。昨年12月のインフレ率は6.41%と前月から低下しましたが、依然として同中銀の目標レンジの上限である6.5%付近で推移しています。また、1月19日、新財務相のレビ氏は燃料、輸入品、および消費者ローンに対する税金の引き上げを発表しました。財政改革への期待は足元のブラジルリアル上昇の要因となってきた一方で、増税はインフレ高進につながるの見方もあります。今回の利上げは、こうしたインフレ圧力を抑え、経済の回復を支えるための措置と考えられます。

今後は、利上げサイクル終了の時期が焦点

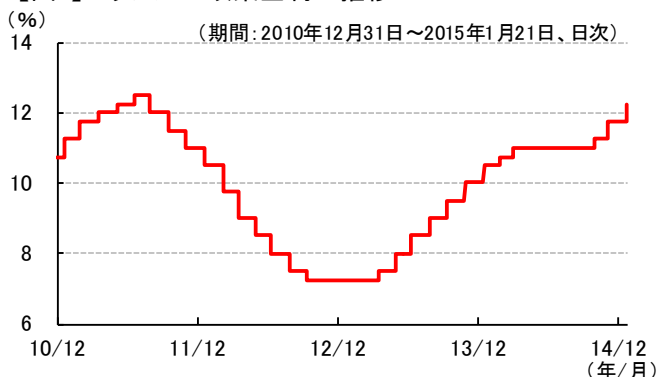
今回の声明文では、前回にあった「今後の金融政策の追加的な調整は小幅になろう」といった将来の金融政策に関する表現が削除されました。

同中銀は四半期のインフレ報告で、インフレ率を目標の4.5%まで低下させるために必要なことは何でもするとしています。今後は、現在の利上げサイクル終了の時期が注目されます。

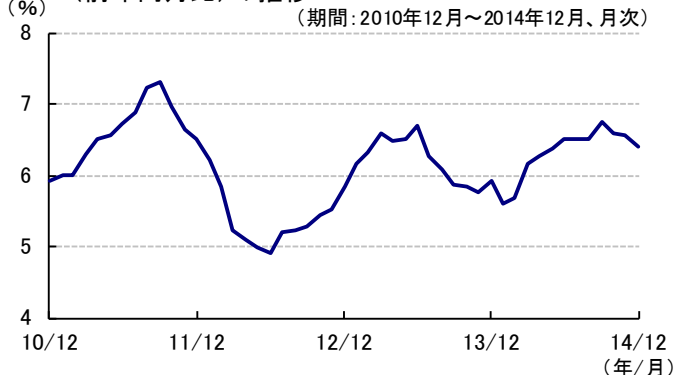
次回の金融政策決定会合は2015年3月3-4日（政策発表は日本時間3月5日）の予定です。

以上

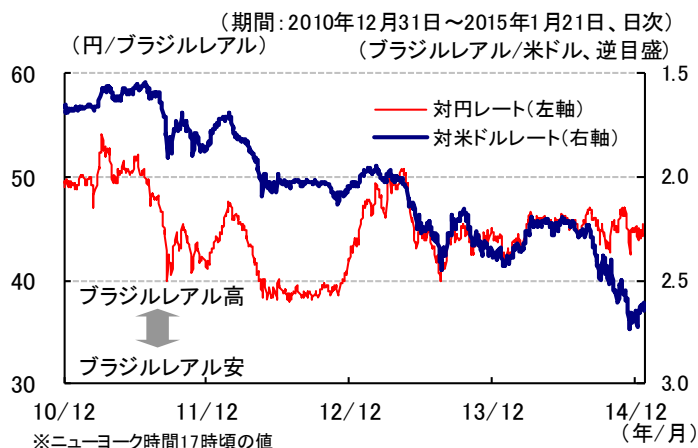
【図1】ブラジルの政策金利の推移



【図2】ブラジルのインフレ率（拡大消費者物価指数、IPCA）（前年同月比）の推移



【図3】ブラジルリアルの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成